

connect

[コネクト]

第2号

令和4年4月



医療の“いま”、病院の“いま”を
お伝えします。

特集 専門外来紹介

小児アレルギー外来
リンパ浮腫外来
脳ドック外来

● 医師紹介

つながる医療 つながる生命



公益社団法人昭代会 IMAKIIRE GENERAL HOSPITAL

いまきいれ総合病院

特集 専門外来紹介

昨年12月より第1、第3土曜日を「土曜外来」として12の専門外来(歯科 口腔外科は通常診療)を開始しています。その中から小児アレルギー外来(小児科)、リンパ浮腫外来(形成外科)、脳ドック(脳神経外科)をご紹介します。

小児アレルギー外来

アレルギーが関わる病気には花粉症、アレルギー性鼻炎、気管支ぜん息、アトピー性皮膚炎、食物アレルギーなどが含まれ、子どものアレルギー疾患は成長するにつれてよく見られる症状や疾患が移り変わっていくことが分かっています。子どもの頃にきちんと診断や症状のコントロールをすることが将来の病状にも関わる可能性があります。当院小児科では2021年9月から小児アレルギー専門外来を始めました。子どもの特性に配慮しながら、将来を見据えて今しておくべきことをきちんとする診療を目指しています。

アレルギー疾患の診療では内服薬だけでなく、外用薬や吸入薬、噴霧薬も重要です。内服薬であれば1袋や1錠など病院から出された量が分かりやすいですし、上手に飲めなかったり飲んだ後に吐き出してしまうたり、ということも見てすぐ分かります。しかし吸入・噴霧した薬がきちんと目標臓器まで届いたのか、外用の範囲や1か所に塗る量が医師の指示通りにできているか、は患者自身や保護者が分からないことが多くアドヒアランスが低下しやすいです。

当院では処方した薬がきちんと効果的に使えているか、にも注意しており診察の際に吸入指導・外用指導を行い、吸入手技を目の前で行ってもらったり実際に使用した外用薬の量を確認したりしてアドヒアランスの維持に努めています。

肘



体幹部

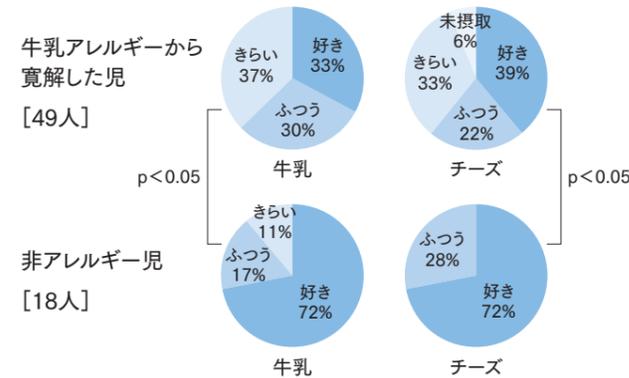


膝



当院で治療を行った小児のアトピー性皮膚炎。初診時は全くステロイド外用薬を使用していませんでしたが、ガイドラインに則った治療を行い、スキンケアや軟膏塗布量などの丁寧な指導を行いました。通院開始後2か月後には、週に1回のステロイド外用で症状の落ち着いた皮膚状態を維持できるようになりました。

食物アレルギーの有病率は1歳未満では7~10%程度であり、小学校に入学するまでに約80%の食物アレルギーが治る(食べられるようになる)とされています。治るまではアレルギーのある食材を完全に避けなければならない、治ってから食べればいい、と考える保護者がいて、乳児期や幼児期早期に症状を認めたことやアレルギー検査が陽性だったことを理由に長く除去食を継続することがあります。実は、完全除去していた食べもののアレルギーが治った後でもその食べものの味を好まず、好き嫌いで結局食べたがらない子どもは多いです。幼児期に「体調が悪くなるから食べたらダメ」と言われて育ち、その言葉が頭に残っていることや、味・風味・食感に慣れていないことが原因と考えられます。

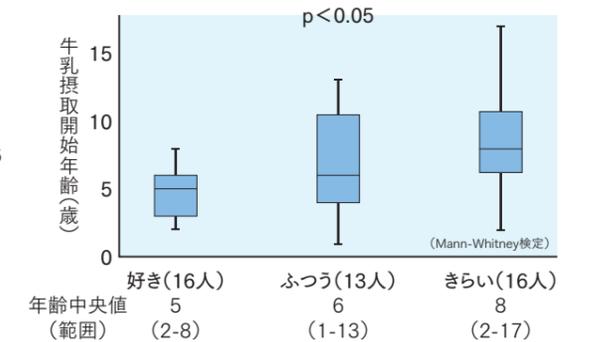


牛乳アレルギーから寛解した児と非アレルギー児で一部の乳製品の嗜好性に差を認めました。

※図はいずれも、佐藤ら、「牛乳アレルギー児の嗜好の現状と乳製品摂取支援レシピへの応用」日本小児臨床アレルギー学会誌 2020,第18巻,p.79~88. より引用して一部改変

また、皮膚テストや抗原特異的IgE抗体価検査の感度や特異度は十分ではなく、それらを基準にしてしまうと症状無く食べられるものまで除去してしまう可能性があります。食物アレルギー診療ガイドライン2021では「鶏卵、牛乳、小麦、大豆などについては、症状を誘発しない範囲の量を見極めて、摂取する指導を行う(中略して抜粋)」とされていますが、検査ではその量の見極めも困難です。

当院では、食物アレルギーの確定診断や摂取できる量の確認に不可欠な食物経口負荷試験を行っています。将来の嗜好への影響も考慮して、早めに完全除去を脱して摂取開始につながるよう意識しています。



牛乳アレルギーから寛解した児の牛乳嗜好性で、摂取開始年齢に差がありました。

地域の医療機関のみなさまへ

当院の小児アレルギー専門外来は始まったばかりですが、ご紹介頂ける症例が徐々に増えています。入院施設のバックアップのある、より安全な食物経口負荷試験が可能です。コントロールに難渋しているアレルギー疾患症例やアドヒアランスの維持が困難な症例なども、ご紹介頂ければ丁寧に対応いたしますので、よろしくお願いいたします。

アレルギーを専門にする医師は、医師自身が重症の気管支喘息やアトピー性皮膚炎の経験者であることが多いです。私はアレルギー体質のようなものが全くなく、ニュースで「スギの花粉飛散がピーク」と言われる時期も、ほこりっぽい所の掃除をしても、鼻水も全く出ません。自分の経験が無いからこそ、患者さんの訴えや困り感をきちんと傾聴し、真摯に対応することを心がけています。



小児科
科長 今給黎 亮

○医学博士(鹿児島大学) ○日本小児科学会小児科専門医
○一般社団法人日本アレルギー学会 アレルギー専門医(小児科)

2007年鹿児島大学医学部医学科卒業。独立行政法人 那覇市立病院(沖縄県)で初期臨床研修後、小児科専門研修。2012年から鹿児島大学小児科に所属し県内の医療機関で勤務を経て2017年~2019年 国立病院機構三重病院(三重県)でアレルギー専門研修。2020年鹿児島大学大学院医歯学総合研究科を卒業し博士号(医科)取得。2021年9月より現職。

リンパ浮腫外来

リンパ浮腫は症例数が多いにもかかわらず、いまだに完治が難しい疾患であります。いままでさまざまな内科的治療や弾性着衣等の圧迫療法によって、治療が続けられてきました。しかし、近年になり顕微鏡の発達と、マイクロサージャリーの発展により、リンパ浮腫の効果的な外科的治療が広がってきました。当院では形成外科医によるリンパ浮腫の診断と外科的治療を目的として、リンパ浮腫専門外来を開設することになりました。

リンパ浮腫の発症原因は主に、リンパ管の機能が脆弱なことが原因の原発性リンパ浮腫と、悪性腫瘍でリンパ節を切除した場合や、放射線治療でリンパ管・リンパ節の機能が低下してしまう続発性リンパ浮腫に分けられます。9割以上が続発性リンパ浮腫ですが、発症時期は術直後の場合から、十数年経過してからの場合もあり、症例ごとに異なります。症状は、腕や脚がむくんで周径が増え、だるさや重さがでる所見や蜂窩織炎という発赤・(平時と比べ)腫脹・発熱を伴う強い炎症を起こすこともあります。特に蜂窩織炎は月に複数回繰り返す症例も認め、患者さまのADLに大きな低下をもたらしているのが現状です。

術前



術後



診断

当院でのリンパ浮腫の診断には、リンパシンチグラフィを用いています。リンパシンチグラフィは、国際リンパ学会でも標準検査として推奨されている診断法であり、リンパ浮腫の確定診断に使用されています。リンパシンチグラフィの検査方法は四肢末梢の指(趾)間部にアイソトープを注入し、リンパ管に取り込まれ管腔内を中枢に向かい流れているかを診断します。機能低下を起こしている部位ではアイソトープが、皮膚への逆流現象(dermal back flow)を起こし、全体的にぼやけて見えます。機能が正常な場合はすじ状にアイソトープがリンパ管内を流れているのがわかります。またリンパ管の機能が正常であるにもかかわらず、浮腫を認める疾患には、心原性浮腫、腎性浮腫、肝硬変などに伴い生じることのある消化器系の浮腫、甲状腺機能低下症による浮腫、肥満に伴う脂肪浮腫、薬剤性浮腫(抗がん剤、Ca拮抗剤etc)があり、リンパシンチグラフィを通してそれら疾患との鑑別も重要となります。

外科手術の際の術前後の評価に使用しているのが、インドシアニングリーン色素(ICG)を用いた蛍光リンパ管造影です。ICGを四肢末梢の指(趾)間部に注入しphotodynamic eye(PDE)カメラによって、リンパ管の機能が残存している箇所をマッピングします。同時にエコー下に吻合血管のマッピングを行います。手術に際しては、2種類のマッピングの位置ができるだけ近い位置、リンパ管と静脈が縫合可能な位置に必要な最小限の皮膚切開を行うこととなります。

治療

当院では、手術予定日の1週間前から入院していただき、リンパ浮腫セラピストによる用手的リンパドレナージを受けていただきます。皮下組織にある水分量をできるだけ少なくし、リンパ管内にリンパ液をできるだけ増やし手術に際しての状況を整えます。

手術方法は、主にリンパ管細静脈吻合術(LVA:Lymphatic venous anastomosis)となります。皮膚を2~3cm切開し、顕微鏡下に0.3~0.5mm程のリンパ管と細い静脈を縫合する手術です。リンパ管と静脈にバイパスを作成することにより、リンパ管内の過剰なリンパ液を静脈に流し込み静脈を使いリンパ液をドレナージする手術方法になります。リンパ管と静脈の縫合部が安定した術後5~7日目から再度セラピストによるドレナージを行い退院まで続けます。また退院後の弾性着衣等の維持療法も重要となります。外来にてリンパ浮腫セラピストとともに調整をしています。この手術方法は、創部の深さが脂肪層までの非常に低侵襲な手術方法であり今後さらに発展していく手術だと考えています。

地域の医療機関の

みなさまへ

リンパ浮腫はいまだに完治が難しい疾患ですが、当院では、形成外科医により外科的にリンパ浮腫を改善することができる顕微鏡下でのリンパ管細静脈吻合術を行っております。またリンパドレナージの専門資格を持つ理学療法士や血管外科、皮膚科とのチーム医療により、患者さまのADLの改善に日々努力しております。鹿児島でのリンパ浮腫の外科的専門治療を行っている病院は少なく、今までリンパ浮腫にて長期間治療に難渋している患者さまがいらっしゃいましたら、有効性の高い治療を提供できると考えております。よろしくお願いたします。

趣味は海釣りですが、最近では忙しくて行っていません。その他サッカー日本代表の試合やW杯、NFLなどのスポーツ観戦を好んでいます。



形成外科
科長 外菌 寿典

- 日本形成外科学会領域指導医
- 日本形成外科学会形成外科専門医
- 日本形成外科学会皮膚腫瘍外科分野指導医
- 日本創傷外科学会専門医
- 日本熱傷学会熱傷専門医

信州大学医学部卒業。
京都第二赤十字病院にて研修後、千葉大学医学部形成外科入局。
聖マリア病院形成外科を経ていまきいれ総合病院形成外科に入職。

脳ドック外来

超高齢社会のわが国においては、要介護状態の主因となる「脳卒中」や「認知症」への関心が増えています。健康で豊かな老後を過ごすためには、この「脳卒中」と「認知症」にならないようにする若いときからの取り組みが欠かせません。このため当院の脳ドックでは動脈硬化や認知症の危険因子を早期に発見して、脳卒中や認知症の発症予防に努めることを目的としています。脳ドックでみられる注意すべき所見としては無症候性脳梗塞、深部白質病変、微小出血、動脈硬化性の狭窄病変、未破裂脳動脈瘤、良性脳腫瘍、脳萎縮や正常圧水頭症などがあります。そのため脳卒中の評価を主眼とした基本コースに、認知症の評価をする検査をオプションとして用意しました。検査内容としては最新鋭の3テスラMRI装置による頭部MR画像とMR血管撮影に採血検尿、血小板凝集能、心電図、ABI/CAVI、頸動脈エコーを基本とし、オプションの認知症検査に長谷川式・MMSE物忘れテストとMRI/VSRADによる海馬傍回萎縮度評価を追加して行います。



Ingenia Elition 3.0T

■脳ドック検査内容・費用

基本コース	認知症検査(オプション)
検査項目… 頭部MR画像 MR血管撮影 採血検尿 血小板凝集能 心電図 ABI/CAVI 頸動脈エコー	検査項目… 長谷川式・MMSE物忘れテスト MRI/VSRADによる海馬傍回萎縮度評価
費用…38,500円(税込)	オプション費用…5,500円(税込)

地域の医療機関の

みなさまへ

当院の脳ドックは、土曜日の午前中に検査から説明まで3時間程度で終わりますので、平日は仕事で忙しい中年以降の脳の病気が気になる方、特に高血圧、糖尿病、脂質異常症、心房細動、肥満、喫煙、多量飲酒、脳卒中や認知症の家族歴などの危険因子をお持ちの方に検診をお勧め下さい。基礎疾患の高血圧、糖尿病、脂質異常症、心房細動などはかかりつけの先生に治療継続をお願いし、何らかの所見がみられた方は今後の治療方針をご本人ご家族と相談し当院で対応させていただきます。

脳卒中や認知症が我が身にせまった年齢になり、予防の重要性を実感しています。趣味は水彩画、温泉めぐり、カヤックフィッシング(初心者)など楽しんでます。



脳神経外科
寺田 耕作

○医学博士(鹿児島大学) ○日本脳神経外科学会専門医 ○日本脳卒中学会専門医
○日本頭痛学会専門医

1982年、鹿児島大学を卒業後、鹿児島大学病院、県立大島病院、藤元総合病院、加世田病院、今給黎総合病院、いちき串木野市医師会立脳神経外科センターなどに勤務し、現在非常勤としていまきいれ総合病院、霧島市立医師会医療センター、なかやま脳神経外科に勤務しています。

Information



就任のお知らせ

公益社団法人昭和会



公益社団法人昭和会
副理事長
今給黎 南香(麻酔科)

いまきいれ総合病院



いまきいれ総合病院
副院長
岩川 純(呼吸器内科)



いまきいれ総合病院
診療部長
船川 慶太(消化器内科)

4月入職医師紹介

いまきいれ総合病院



消化器外科
科長
林 知実

- 日本外科学会専門医・指導医
- 日本がん治療認定医機構 がん治療認定医
- 日本消化器外科学会専門医
- 日本内視鏡外科学会技術認定医 (消化器・一般外科領域)
- 消化器がん外科治療認定医
- 医学博士(鹿児島大学)



泌尿器科
科長
水間 浩平

- 日本泌尿器科学会専門医・指導医
- 日本泌尿器内視鏡学会泌尿器腹腔鏡技術認定医
- 日本内視鏡外科学会泌尿器腹腔鏡技術認定医



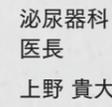
小児科
科長
柿本 令奈

- 日本小児科学会小児科専門医
- 日本内分泌学会内分泌代謝(小児科)専門医



救急総合診療科
医長
湯田 琢馬

- 日本内科学会認定内科医
- 日本プライマリ・ケア学会認定指導医
- 日本プライマリ・ケア連合学会家庭医療専門医
- 日本旅行医学会認定医
- 日本専門医機構 総合診療専門研修特任指導医
- 日本専門医機構 総合診療専門研修プログラム統括責任者



泌尿器科
医長
上野 貴大

- 日本泌尿器科学会専門医・指導医
- 日本泌尿器内視鏡学会泌尿器腹腔鏡技術認定医
- 日本内視鏡外科学会技術認定医(泌尿器腹腔鏡)
- 日本がん治療認定医機構がん治療認定医



血液内科 | 中別府 聖一郎
○日本専門医機構認定内科専門医

糖尿病内科 | 池田 真紀

消化器内科 | 飯高 正典

呼吸器内科 | 下馬場 健一

消化器外科 | 椎葉 忠恕

呼吸器外科 | 二又 卓朗

整形外科 | 里中 洋介

整形外科 | 甲斐 勇樹

整形外科 | 北川 博之

整形外科 | 堀家 陽一

形成外科 | 比嘉 理圭

泌尿器科 | 廣畑 ゆき子

頭頸部・耳鼻咽喉科 | 峠 早紀子

放射線診断科 | 原澤 朋宏

放射線診断科 | 長野 大悟

歯科口腔外科 | 藤井 竜太
○がん患者歯科医療連携登録医

歯科口腔外科 | 本間 遼

上町いまきいれ病院



眼科 医長 薦寄 創平

眼科 薦寄 薫



まある

4月1日 開設

「まある」が目指すもの

親子が楽しみながらお子様の成長をまあるく育み
家族同士がまあるく交流する場を目指します。

昭和会理念

「協力・貢献・向上・教育」

1. 全職員の協力体制
2. 地域社会への貢献
3. 自己研鑽と向上心
4. 人材育成と教育



公益社団法人昭和会 IMAKIIRE GENERAL HOSPITAL

いまきいれ総合病院

〒890-0051 鹿児島市高麗町43番25号
TEL: 099-252-1090 FAX: 099-203-9119
<https://imakiire.jp/>



当日入院の
ご依頼(緊急)

医療機関専用緊急ダイヤル 救急患者のご紹介(24時間対応)

TEL: 099-203-9115

医療連携全般の
お問い合わせ

地域医療連携センター

TEL: 099-203-9110 FAX: 099-203-9101 月～金曜日 8:30～17:00 / 土曜日 8:30～12:00

翌日以降の
診療予約

外来予約センター 診療予約・予約変更

TEL: 099-203-9100 FAX: 099-203-9101 月～金曜日 9:00～17:00 / 土曜日 9:00～12:00

画像検査の
ご予約

画像予約センター

TEL: 099-203-9102 FAX: 099-203-9144 月～金曜日 9:00～17:00 / 第1・3土曜日 9:00～12:00



関連施設

上町いまきいれ病院

〒892-0854 鹿児島市長田町5番24号
TEL: 099-222-1800 FAX: 099-226-3366
<https://imakiire.jp/kanmachi/>



関連施設

まある

〒890-0054 鹿児島市荒田1丁目15-3
TEL: 099-202-0325 FAX: 099-202-0326

いまきいれ総合病院の
公式SNSもチェック! >>

